

森っ子だより

国富町立森永小学校 NO10

平成29年 1月27日発行
文責 校長 菊池 光一

学校だより

立春はすぐそこに・・・

1月10日から始まった3学期ですが、早くも1か月が過ぎようとしています。2月初旬には立春、前日の節分の日もそこまで来ています。

町内の商店には、恵方巻きの予約のチラシが貼られ、また一方では、バレンタインデーのチョコレートの展示などがしてあります。

店内のBGMも間もなく「ひな祭り」に変わることでしょう。そんな様子に「春」の訪れを感じながら、何となく心がウキウキしてしまいます。

しかし、先日のように、強い寒さの朝が続くとまだまだ「春」は遠いな、と感じる今日この頃です。

右上の写真は、理科室前の犬走りです。教務主任の岡村先生が、3月の卒業式に向けて、ペチュニアやパンジー、キンギョソウの苗を育てています。大きな黒ポットに500個以上。小さかった苗は、寒さの中、細かな手入れと、森永の太陽の光をしっかりと浴びて確実に大きく成長しています。卒業生を送る華やかな会場が今から楽しみです。



今月も多くの行事がありました



1年 食育授業

1/19 本庄中の栄養教諭の田中先生をお迎えして食育の学習を行いました。好き嫌いをなく食べよう、をめあてにバランスの良い食事の大切さを学びました。



5年 もちつき

1/13 学校でもちつきをしました。田植え、かかしづくり、稲刈り、そして最終段階のもちつきという一連の米作りの最後の学習でした。当日は5年生の保護者の皆さんJA青年部の皆さんの協力を得て、実施しました。もち米洗いなど、前日から協力いただいた役員の方々、ありがとうございました。また、田植え、水の管理、稲刈り、脱穀とJA青年部の方には子どもたちへの指導、米作りそのものに関わっていただきました。作物を育てる苦労を学習することができた貴重な体験でした。



火災避難訓練

の使い方も教えてもらいました。

1/11、火災を想定した避難訓練を行いました。当日は予告なしのぬきうち訓練でしたが、子どもたちは落ち着いて、安全に避難ができました。

消防署の方から、消火器



6年小中合同発表会

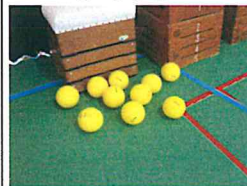
2ヵ月後の中学校への入学が楽しみです。

1/26、6年生が本庄中で小中合同発表会に参加しました。本庄小の6年生、本庄中の2年生と発表や交流活動を行いました。小学生は、校区の紹介を、中学生は職場

体験学習の発表でした。

ありがとうございます

その1 12月末、森永高齢者クラブ様よりタオルの寄贈がありました。何枚あっても助かるです。



やボール運動で活用できそうです。

その2 空き缶回収に取り組んでいただいておりますが益金で体育用の柔らかいボールを10個購入しました。柔らかいので体育館内でのサッカー

2月 主な行事予定

- 1日(水) 小中合同あいさつ運動、全校朝会
- 2日(木) クラブ活動
- 3日(金) ALT訪問、読み聞かせ
- 6日(月) 薬物乱用防止教室(6年)
- 8日(水) 上・下学年集会
- 10日(金) 新入生保護者説明会、読み聞かせ
- 13日(月) 読書の日(ノ・テレビ・ゲームデー)、ALT
- 14日(火) 租税教室(6年)
- 17日(金) クラブ(3年見学)、読み聞かせ
- 21日(火) 参観日、ALT訪問、読み聞かせ
- 23日(木) クラブ活動
- 24日(金) 読み聞かせ
- 27日(月) 卒業式練習(朝)、委員会活動
- 28日(火) 読み聞かせ

新年を迎えて

1月の10日の始業式で、2名の児童が新年を迎えての抱負を発表しました。6年生の武田真聖君は始業式で発表した後、1月12日に行われた、「国富町 新春子どもの声を聞く会」で森永小代表として堂々と発表しました。発表の内容は、11月の学校便りで紹介しております。

今回は、2年生の 野田 あやねさんの抱負を紹介します。

新年をむかえて

二年 野田 あやね

今日から、三学ぎが始まります。あ
たらしい年になり、わたしは、うきうき
しています。がんばる気もちでいっぱい
です。

わたしが、三学ぎにがんばりたいこと
は三つあります。

一つ目は、え顔であいさつすること
です。え顔であいさつできたら、わたしの
心もきれいになります。あい手の人も気
もちがいいと思います。

二つ目は、べんきょうです。じゅぎょ
う中にしっかり聞いて、テストでももて
うら百点になるようにしたいです。きよ
うかしょのもんだいをぜんぶ花まるにし
たいです。

三つ目は、えんぴつのもち方を正しく
することです。えんぴつをきちんともつ
て、今までよりきれいな字を書きたいで
す。

三学ぎ、わた
しは、この三つ
のことをがんば
りたいです。



～ インターネットから拾いました ～

こんな人になりたい-----マラソンランナー「浅利純子さん」(現：高橋純子さん)

【浅利純子さんの経歴】

平成5年から10年頃にかけて、女子マラソン選手として、世界大会やオリンピックに日本代表として出場し、平成10年東京国際女子マラソン優勝など数々の輝かしい成績を残したランナー。

平成18年、長野県の松川町第20回記念駅伝大会に招待選手として参加し、その大会の閉会式が中央小学校の体育館で開催されたときの公民館長さんの話。



参加66チームの選手達は閉会式のために、体育館に集まっていたんです。招待選手の浅利さんは、一般選手より遅れて入られましたが、体育館の玄関に雑然と脱いであった参加選手の運動靴を一足ずつ丁寧に揃えておられました。

揃え終わる頃に、私が町長さんを連れて体育館へ着きました。そのとき、浅利さんは何のためらいもなく、私と町長さんにさっとスリッパを用意してくれました。私は、していることが逆ではないかと大変恐縮しました。

後で聞いた話ですが、浅利さんのチームは浅利さんがアンカーで28位でゴールしたのだそうです。ゴールした後、もう一回前の中継所まで走って戻り、最終チームのアンカーを励ましながら、さらにもう1回6区を走ったのだというのです。こんな世界一流の選手が、現役を引退しているとは言え、「しゃべるのは苦手です。」と言葉少なでしたが、靴を揃えたり、スリッパを出してくれたり、最終ランナーの伴走をしたりするという気配りと謙虚さには、感動しました。

「勝って驕らず(天狗になるな・調子に乗るな)」とか「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉どおりの行為を目の当たりにしました。

ちやほやされるとつい、いい気になってしまいがちですが、浅利純子さんは、人としての謙虚さと気配りを身をもって教えてくれました。

- ◎ 何でもそうですが、一流、匠などと呼ばれている人には、他の者が持ち合わせていない何かがあります。だからこそ、一流となり得るのでしょうか・・・。自分には一流と言われるようなものは何もありません。何となく劣等感があります。ですから、常に「周りの人は私より優秀である」という考え方をもっています。謙虚さだけは忘れないように心がけているつもりです。